

# 論文集の刊行にあたって

活水女子大学看護学部長 井上靖久

活水学院は1879年の創立以来、137年の歴史を持つ教育機関であり、キリスト教精神を基盤に「高潔な心情」「指導者としての責任遂行能力」および「経済的独立の能力」を備えた自立的な女性の養成という建学の理念の具体化のために、生命の尊厳を学び、より高度な実践的専門職業人を育成するために、2009年に看護学部を設置して、9年目を迎えようとしている。

本学部は地域で生活する人々の健康支援について、地域の関係者と連携して協働することを願っています。そのためには、現任看護師、保健師の教育・研究強化を図ることも高等教育機関としての本学の使命であると考えています。各教員の研究成果は、特にこれからの活躍が期待される若手の先生方の投稿を中心に年一回発刊する活水論文集に掲載してきました。

今回第4集の発刊にあたり、日常の実習指導、授業および学習指導に多忙な中での研究への取り組みであることから、投稿された先生方には感謝と敬意を表したいと思います。

看護学分野の授業内容や実習指導法は常に前進し、また深化しており、さらに医療・保健・福祉分野が連動しつつ変化、発展しなければ社会の変化に対応できません。教育には今後ますますの創意工夫が必要となっています。このためにも看護学部の教員は広い視野を持ちつつ、たゆまざる専門領域の探求と研鑽が求められています。日常の取り組みの中にこそ研究に繋がる要素が詰まっていると考えています。

また、領域間、学部間のみならず、他大学、産業界、自治体と連携・協力も日常の教育に資するだけでなく、研究テーマを得る重要な機会となると思います。積極的に他分野と交わり協力して頂きたいと願っています。

このたびの論文集の刊行するにあたって、改めて投稿いただいた先生方の熱意や、尽力いただいた編集委員の先生方の御苦勞に感謝を表したいと思います。

看護研究が活水の教育理念を具現化するものでもあることを自覚しつつ今後も活発な研究が続けられることを願っています。

2017年1月19日